モラルサイエンス研究会（令和 3 年 2 月 10 日）発表要旨

コロナ禍の医療現場における生命倫理的課題
―不足医療資源の配分問題を中心に―

生命環境研究室
客員教授　足立　智孝

新型コロナウィルス感染症による世界的な感染拡大により、医療現場では医療資源の不足が問題となっている。特に重症患者の生命維持に関わる医療資源の配分は「生命の選別」に直結する重大な問題となる。本発表では、コロナ禍における医療資源が制約された状況での資源配分について、諸外国のトリアージに関する倫理指針を参考に論点整理を行った。

世界的にコンセンサスが得られている事項としては、トリアージの基本的原則である「利益の最大化」と「正義」に基づくこと、特に正義原則に関しては「平等性」より「公正性」が適した概念であること、医学的基準の指標を明示すること、「年齢」のみを基準としないこと、公平性と透明性を保証するために二人以上の医師またはチームで意思決定すること、患者の意思を尊重すること、状況次第で配分決定の再評価をすること、医療スタッフの心理的・身体的負担の軽減を考慮すること、が挙げられると論じた。